

日本総合歯科学会雑誌・12巻発刊に際して

一般社団法人 日本総合歯科学会
理事長 鳥井 康弘

本学会は、本年9月1日をもちまして一般社団法人日本総合歯科学会となり、新たに出発することになりました。

日本総合歯科学会は、2008年に初代理事長の小川哲次先生（広島大学）の呼びかけで大学歯学部および附属の病院の総合歯科医療の教育、研究、臨床を担う部署の方々が集まり、包括的な歯科医療について議論し、その研鑽と活動の場として総合歯科協議会が発足されたことを始まりとします。その後、日本総合歯科協議会への名称変更を経て、2013年に長谷川篤司先生（昭和大学）が主宰された第6回日本総合歯科協議会総会・学術大会の際に、2代目理事長の樋口勝規先生（九州大学）のもとで学術団体としてより高みを目指し、任意団体としての日本総合歯科学会に移行しました。その後、総合歯科医療に関する研究、教育、臨床について発展させるべく継続して活動し、7年が経過しました。

なかでも、本学会のアカデミックな活動の証として、年1回の学術大会の開催と学会雑誌の発行を行い、学術大会は総合歯科協議会から数え本年で13回、学会雑誌は今回の12巻を発行するに至っています。学会雑誌にご投稿いただいた皆様に御礼申し上げますとともに、編集査読に情熱をもって対応してきていただいた編集査読委員会の前委員長の小出 武先生（大阪歯科大学）、現委員長の井上 哲先生（北海道大学）をはじめとする委員の皆様にも厚く御礼申し上げます。

さて、社会的に広く認知され使命を果たすことを目的に、一昨年度の総会において法人化のための準備を開始することが承認され、一般社団法人格を取得するべく準備を行ってきたところですが、本年9月1日に一般社団法人日本総合歯科学会を新たに設立することができました。かねてより行ってきた事業内容を継続しつつ、今後も総合歯科医療の臨床、研究と教育をさらに発展させ、わが国の歯科医療に貢献すべく、努力して参りたいと思います。一般社団法人格を取得したことによって、本学会がさらに一段階、発展することを強く望んでおります。学会活動の中でも、雑誌発刊は大変重要な活動の一つであり、一般社団法人となっ

た本学会の活動内容・情報の社会への発信として大変重要な事業です。雑誌を洗練したものとするために、編集査読委員の皆様には今後ともよろしく願いいたしますとともに、念願の日本歯科医学会分科会となるためには、継続的に原著論文5編以上の雑誌掲載が最低条件とされておりますので、会員の皆様におかれましては、継続して多数のご投稿をお願いいたします。

本学会は、2008年に総合歯科協議会として設立されてから12年、2013年に任意団体日本総合歯科学会として学会組織に移行してから7年が経過し、本年から一般社団法人日本総合歯科学会として新たなスタートを切ったわけですが、まだまだ発展途上であり、それはつまり、より高みを目指す余地があるとともに、さらに発展させていくためには多大な努力を要するという点でもあります。2015年から運用している認定医制度をさらに充実させ、2019年に策定した「日本総合歯科学会認定総合歯科医研修カリキュラム」に基づいた研修を新たに企画するなど、包括的総合歯科医療に関する研究・教育を進歩・発展させていくための様々な活動が求められます。

本学会の設立目的は、定款にも記載されているように包括的総合歯科医療に関する研究・教育の進歩・発展を期し、併せて総合歯科医療、口腔プライマリケアの向上に寄与し、もって国民の健康福祉の向上に貢献することです。本学会の前進である総合歯科協議会の設立の経緯は、前述したように、大学歯学部および附属の病院に総合歯科医療の教育、研究、臨床を担う部署が設置されるに伴って、既存の専門細分化された学会とは異なる組織を立ち上げ、包括的（総合的な）な歯科医療・歯科医学の研究・教育を確立し、それらをベースとして歯科医療をさらに発展させ、さらには、次世代の後継者育成をも目指して幅広く活動することが必要であるという、関係者の皆様のコンセンサスがあったためでした。

一般社団法人日本総合歯科学会としての新たなスタートに際して、総合歯科協議会を発足させた際の情熱を忘れることなく、本会の目的である包括的な歯科医療をそれに関する研究で得られたサイエンスに基づ

いた学問とし、臨床を発展させ、教育をさらに推進していく必要があると考えております。

最後になりますが、本年は年頭から、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の世界的な大流行が継続しており、未だかつて経験したことのない大厄年となりつつあり、わが国においても同様の状況です。社会のすべての活動と同じく、歯科医療においても大きな負の影響が生じており、そのような時期に本学会は一般

社団法人となったのですが、この法人化を機に、社会的に広く認知され、その使命を果たすことを本学会の是として活動していきたいと思っております。関係各位の皆様におかれましては、今後とも格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。また、会員の皆様におかれましては、ご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。